

第14回「ハガキにかこう海洋の夢コンテスト」体験乗船

○久松和恵・山本美玲・共田信男・萩田善之・満澤巨彦・土田真二・三宅裕志・山室悠太・田代省三
(海洋研究開発機構)、大矢宏子・小林理恵(共立管財(株))、一柳麻里香((株)マリン・ワーク・
ジャパン)、平岡礼鳥(東京海洋大学)、深見亜耶(北里大学)

海洋研究開発機構では、未来を担う子供達の海洋に対する夢や憧れ、興味を喚起するために、ハガキに海洋への夢やアイデアを自由にえがく「全国児童『ハガキにかこう海洋の夢コンテスト』」を実施している。第14回を迎えた平成23年度は、28,535点の応募があった。入賞者15名を保護者ととともに、平成24年8月16日から18日、海洋調査船「なつしま」に乗船し無人探査機「ハイパードルフィン(HPD)」で駿河湾の深海を調査する日帰り体験乗船に招待した。

乗船前日、入賞者はホテルで概要説明を受け、実験の簡単な準備をして乗船に備えた。当日の海況は南からの弱いうねりがあったものの比較的恵まれ、「なつしま」は清水港を出港した。入賞者はまず船内でのレクチャーを受けてから、深海の話聞き、船内を見学して深海調査への期待をふくらませた。海域到着後、HPDのオペレーションを開始、下降中は各深度で水温、塩分、溶存酸素を記録し、海洋の環境について学んだ。海底では餌を設置し、生物の摂餌行動を観察することで、深海環境に生息する生物の習性を学んだ。また、入賞者が事前に提案した深海実験(ゴムひもを用いたボールとばしや釣り、水圧による物の変化)を行った。実際の深海で水深や圧力にとまなう様々な変化を自分の目でみることで、実験のおもしろさを体感した。HPD浮上後は、採集に成功したオオグソクムシやコンゴウアナゴなどを実験室で解説を聞きながら観察し、深海生物への興味を高めた。この他、HPDや「なつしま」の操縦も体験した。

入賞者は海洋調査の現場で実体験をすることで、海洋への探求心をさらに深めたと考えられる。将来の人材育成にもつながる有意義な航海であった。



潜航直前のHPD



HPDを操縦



採取した生物を観察



乗船後の記念撮影